

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022 年 11 月 07 日
- 事業名 : リユースお弁当箱がつなぐ地域デザイン事業
- 資金分配団体 : 甲信地域休眠預金等活用コンソーシアム
- 実行団体 : 特定非営利活動法人スペースふう

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
<p>①産後ママを中心とする子育て家庭が地域とつながり、安心した子育てができています</p> <p>1-1 ヒアリング・ニーズ調査を行い、対象者の現状を把握できている。</p> <p>1-2 産後0～6ヶ月のママが「出産・子育てお疲れ様応援弁当」を利用している。</p> <p>1-3 よりつながりを必要としている子育て家庭がお弁当を利用している。</p> <p>1-4 継続的にモニタリングを実施することで、本事業の改善が図られている。</p>	<p>1-1 コミュニケーションがとれている（つながる）世帯数</p> <p>1-2-1 配食数</p> <p>1-2-2 満足度やニーズ</p> <p>1-3-1 配食数</p> <p>1-3-2 満足度やニーズ</p> <p>1-4-1 対象者とコミュニケーションがとれている</p> <p>1-4-2 対象者の日常の会話の中での状態やその変化</p> <p>1-4-3 観察記録から、当事者の状態を読み解く</p>	<p>1-1 160世帯（産後130世帯、個別20世帯）</p> <p>1-2-1 1,500食(大人、こども含)</p> <p>1-2-2 お届けメンバーに自分のことを話したり、ネガティブなことも共有することができる</p> <p>1-3-1 1,500食(大人、こども含)</p> <p>1-3-2 1-2-2と同様</p> <p>1-4-1 利用が終わった後も直接もしくは間接的に対象者とやりとりができています</p> <p>1-4-2 対象者の状態やその変化をある程度把握している</p> <p>1-4-3 それを客観的な視点で理解できている</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<p>1-1 のべ45世帯（産後35世帯、個別10世帯）</p> <p>1-2-1 約270食（産後ママ、こども含）</p> <p>1-2-2 挨拶以上に話すことができている。利用したことのある産後ママの満足度は高い。</p> <p>1-3-1 約660食</p> <p>1-3-2 個別の事情に応じて関係を築く時間がかかる家庭も多く、関係性の度合いも異なっている</p>	<p>3</p>

<p>②社会的つながりが少ない若者や女性等や働きにくさを抱えている若者や女性等が、地域の様々な人たちのネットワークによって、社会とのつながりを実感し、暮らしやすい地域になっている（つながりの連鎖）</p> <p>2-1 お弁当をつくったり、宅配したり、食器を洗うこと等で働く場ができる</p> <p>2-2 当事業に関わる対象者の状況を把握できている。</p>	<p>2-1 関わる人数</p> <p>2-2-1 収入が得られる人数</p> <p>2-2-2 働くことへの意欲</p> <p>2-2-3 働く環境の状態</p> <p>2-2-4 宅配回数 使い捨てごみの削減</p>	<p>2-1 15人 2-2-1 15人</p> <p>2-2-2 対象者に対して意欲が生じ、継続的に仕事として関わり、やりがいを感じている本事業から、次のステップとして別の職場へ移行している人もいる</p> <p>2-2-3 働く環境に対して対象者それぞれの働きにくさを理解し、それをカバーできる環境になっているためどう整えていくとよいか方向性が見えている、あるいは実践できている状態</p> <p>2-2-4 3000食分(大人、子ども含)</p>	<p>2024年3月</p>	<p>2-1 のべ9人(現在3人継続中)</p> <p>2-2-1 9人(現在3人継続中)</p> <p>2-2-2 働く意欲を感じ、継続して働いている。</p> <p>2-2-3 本人の事情(心理的状況、生活環境、家族構成等)を理解しながら、継続して関わる事ができるよう相互に環境を整えている。</p> <p>2-2-4 約930食</p>	<p>2</p>
<p>③切れ目のない支援制度が整い、相談しやすい環境になっている（つながりの多面化）</p> <p>3-1 対象者のニーズに対して、どう対応するのか自分たちの学びを深め、解決への道筋をつくる。</p> <p>3-2 現状把握の状況に基づいて、行政や他地域団体と連携する。</p>	<p>3-1 周辺地域での子育て支援団体、企業、自治体、支援者等つながっている数</p> <p>3-2 上記の対象団体数及び支援者(個人)との関係性</p>	<p>3-1 周辺地域で活動している子育て支援団体、企業、自治体等、顔がつながっている数は30団体(個人含む)。</p> <p>3-2 必要に応じて、相互的に意見交換や相談等が日常的にできている状態になっている。</p>	<p>2024年3月</p>	<p>3-1 (仮称)富士川町地域ネットワークを構築中しており、その過程を通して参加団体との関係性を深めている段階。</p> <p>3-2 個別でつながっている段階で、連携まで至っていない。</p>	<p>3</p>

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・活動を行っているメンバー、特に配達メンバーについては支援者と対面で会話をすることから、自分だけでなく家族の体調管理に留意し、体調を崩した時、もしくは崩す予兆があった場合には、事前に休みやすいよう待機メンバーの確保を行いつつ体制を整えていった。 ・利用対象者への週1回のライン配信では、地域のコロナ感染拡大の状況に応じて中止としたり会話を短くする旨安心して利用できるようその説明を毎回入れて案内した。 ・対象者本人、もしくはその家族がコロナ陽性者となった場合は、対面ではなく、クーラーボックスに入れて非対面で渡せるようにこころがけた（その際は使い捨て容器を限定的に使用した）。

③ 広報（※任意） 2022年4～9月分まで記載

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

・2022年5月グローバルネット5月号 p8-9 Hot Report

『リユース×お弁当箱だからこそできる ソーシャルキャピタル～第1回ホットスフォーラム～』

2.広報制作物等

・2022年8月 ユニオン通信（山梨ユニオン） p6-7

『「スペースふう」の新たなチャレンジとは コロナ禍の中、「環境」×「福祉」の地域づくりを！』

3.報告書等

・認定NPO法人スペースふう 2021年度活動報告書 p2-3

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	総括アドバイザー	市川淳子	理事
内部	事業全般、総括	長池伸子	理事/事務局長
内部	運営担当	有賀みゆき	運営スタッフ

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
①産後ママを中心とする子育て家庭が <u>地域とつながり、安心して子育てができる</u>	「当事者の変化」を観察及び記録し、相互のつながりが実感できる ・対面でのやりとり（会話の内容や回数） ・ラインでのやりとり（ラインの内容や回数）	・初期値からの向上 ・【自分のことを他者に語るができる】【今までよりもさらに語るができる】ようになる ・【大切にされていることを感じる】【人とつながり、孤立感・不安感が減る】感情の小さな変化が発現し、実感していることを言葉にすることができる	2024 年 3 月	・ラインでの相互やりとりやインスタ等の投稿等で、本事業を利用する前から産後ママと接点が生じていることで、顔の見える関係としてコミュニケーションしやすい機会が生じていた。（ライン登録者 52 人、定期配信 55 回、インスタフォロワー91 人、投稿 135 回） ・対面では言葉にしにくくても、SNS の活用により本人の都合のいいタイミングで感想等気持ちを伝えてくれることがあり、相互のつながりを共有しやすい状況がみられた。 ・本事業を利用し、その良さを実感することで、他者にお弁当利用の良さや感想を伝えたり他の産後ママへ推薦する行動につながっている人もおり、その行動によって次の利用者に

				<p>つながっていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用してくれた産後ママには、対面時の会話やラインでのやりとりから、この活動について高評価・好印象をもってくれた人がほとんどであった。 ・子育て支援課との関係性が深まり子育て支援課からの呼びかけにもつながったことで、信頼度が高い取り組みとして、利用者も利用しやすい状況になったと思われる。
<p>②社会的つながりが少ない若者や女性等や働きにくさを抱えている若者や女性等が、地域の様々な人たちのネットワークによって、<u>社会とのつながりを実感し、暮らしやすい地域になる</u>（つながりの連鎖）</p>	<p>対象者が本事業に何らかの形で関わり（仕事・ボランティア等）、その人数が増える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期値からの向上 ・本事業に関わった体験が社会とのつながりを深め、将来的な選択肢が広がる ・対象者にあった関わる人が増えている ・いろいろな人と交流することで、対象者が自信をもち、前向きに考える機会が増える 	<p>2024年 3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずはスペースふうとつながるにあたって、対象者の身近な協力者とつながり、対象者の背景や状況を理解する機会があり、どのように受け入れたらいいか、どのような環境を整えたらいいか検討する時間を丁寧に設ける必要があることを認識した。 ・対象者が安心して関わることができるためにも、関わり始める際には本人の興味があることややったことがあること等をヒアリングしながらスタートし、そこから少しずつ業務等の幅を広げていくことを心がけた。 ・継続して業務に従事することができるよう頻度や時間に配慮した。
<p>③切れ目のない支援制度が整い、<u>相談しやすい環境</u>になる（つながりの多面化）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者が困りごとを話し、一緒に考える相手が増える ・地域で当事者の困りごとを相談できる団体や行政のネットワークができています 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの当事者の支援が必要な場合において、関係者間の意見交換会を必要に応じて開催でき、対象者の状況を理解し対応できている状態 	<p>2024年 3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年に発足した（仮称）富士川町地域ネットワークでは、定期的にワークショップを行いながら、各団体・組織の活動について理解し、関係を構築している段階である。 ・ネットワークの参加者を通して個別対応が必要な子育て家庭につながり、宅配対象となったケースも複数みられた。 ・富士川町子育て支援課の他に、周辺自治体の子育て支援課等と情報交換や個別相談を実施するようになった。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>資金分配団体評価アドバイザーの助言、担当 PO とともに、中間評価において、事業進捗の振り返り、アウトカムに連動するように、事業設計の改善を行い、短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがあると判断した。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	産後のママの利用はあったか	利用はあった	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年10月よりお弁当宅配（ホットス）をスタートしてから、のべ35組の富士川町在住の産後ママが利用した（利用はしていないけれど個人登録済みは他2件あり）。富士川町では年間約70名が出産するので、5割弱の産後ママが利用したことになる。 ・宅配スタートした当時は、新聞・テレビ等で目にする機会があったり、行政からの案内や、すでに利用したママからの案内やSNS等、複数の情報源を得ることによって利用につながったケースが多かった。 2022年1月以降、毎月富士川町が実施している産後2～3ヶ月ママ向けの「すこやか教室」に、スタッフが参加し直接案内することによって活動を知ってもらいきっかけになっている。
実施状況の適切性	産後ママは宅配利用によって安心できる機会を得られたか	安心できる機会を得られている	<ul style="list-style-type: none"> ・宅配利用後の感想から、ホットスお弁当は産後ママにとって安心できたり、ほっと息抜きできる機会となっている。 ・いきなり自分自身のことを伝えるのはハードルが高くても、食べたお弁当やあずま袋の感想は言いやすいので、会話するきっかけづくりとしても有効であった。 ・共通する感想としては、「自分のご飯は後回しで残り物が多かったり、食べなかったりする時もあるので、自分のために用意されたお弁当があるのは嬉しいし大切にされていると感じる、おかずもたくさんあって美味しい」が多かった。 ・また「日中は大人と会話する機会がない、寝不足による体調不良、腰の痛み等マイナートラブルで医者に行ってきた等」対面コミュニケーションについても会話が少しずつ増えるケースが多かった（無理して話す必要はないので、挨拶にとどまっているケースもある）。 ・上にお子さんがいる場合、赤ちゃんのお世話だけではなく上のお子さんの状態

			<p>(イヤイヤ期) やご飯やお世話等も負担になっていることが多く、産後ママと一緒に利用できることで「上の子が食べてくれた！」等お母さんの嬉しい感想につながっていることが明らかになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の満足度が高い産後ママの中で、行政・児童センターの職員や他の産後ママに活動の紹介をしてくれたり、SNSで投稿したり、取材などで協力してくれるママも複数みられた。利用者からの実感のこもった表現や気持ちが次の産後ママの利用につながるケースもみられた。 ・関係づくりの前段として、ラインやインスタ等で事前にこちらの情報をライトな感覚で知ってもらう機会を設け(週1~2回)、登録時にすでにメンバーのことやお弁当のことを知っている人も多く利用へのハードルが下がり有効であった(9割以上の方がラインでのやりとりを希望した)。 ・利用者が増えていくことで、【今回の赤ちゃんがはじめての産後ママ】と【赤ちゃんの上にお子さんがある産後ママ】、【実家の親等が頻繁に来てくれる産後ママ】と【近くでも応援が頼めない(あるいは実家が遠い、いない)産後ママ】、【赤ちゃんが体調を崩しやすい時期】等、状況に応じた傾向が見え、それらに応じた会話をメンバーの経験も交えながら聞くようこころがけた。
実施状況の適切性	産後ママや個別対応が必要な子育て家庭と対面・SNSで接する際に気をつけたことは何か	コミュニケーションをとりやすい状況をつくるために、「支援の専門家・行政ではない素人であること」や「自分たちも子育てでいろいろしんどい経験をして	<ul style="list-style-type: none"> ・お届けメンバーは支援専門のような子育てアドバイスや知識を伝えるということではなく「同じ目線で本人の話聞く」という意識を大切にすることで、たわいもない会話や気持ちにつながったのではないかとと思われる。 ・利用者とのラインの“One to One”の感覚を大切に、やりとりがタイムリーになるよう心がけたことが心理的距離の近さにつながっていたと思われるので引き続きコミュニケーション手段として実施していく。 ・一人ひとり、家庭毎で「安心し、ほっとする」が継続して可能になるためにも、お弁当宅配終了後も継続してやりとりができるようなしかけと、不安になりやすい状況があった時に思い出して連絡をしたり、やりとりができるような存在にな

		いる」対等な立場であるよう気をつけた。	れるよう、関係を構築していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染対策の拡がりを受け集えるような企画はこれまで控えてきたが、今後、定期的にスペースふうへ訪問したくなるような企画を実施する。
実施状況の適切性	個別対応子育て家庭の利用はあったか	利用はあった	・個別対応家庭を理解し信頼関係が築けている第三者からまず情報を得て、その後対象者に直接話を伺うという形で慎重に進めてきた。関係性が築けていない段階で対象者本人が話す内容は限定的になってしまう。そのため、第三者の理解者とも協力しあう関係を築いていくことが重要であり、時間を要することが明らかになった。 ・対面コミュニケーションの補完ツールとしてラインやそれ以外の SNS も実施し、関係性を築いてきた。
実施状況の適切性	宅配利用により、個別対応子育て家庭の変化はみられたか	変化はみられている	・宅配の回数が増え対面で会う機会が増えることでご家庭の事情や日常について話す内容が増えている。 ・抱えている状況はそれぞれ多様であるため、1 家庭 1 家庭のやりとりを大切に気長にかなえる必要があると認識し、実情に応じて利用頻度や終了するタイミング等ご家庭と話し合いながら見直しをしている。 ・ひとり親家庭等で、親の病気や手術で子どもの生活に影響が生じる場合（生じる可能性が高い場合）は、その期間中宅配を利用するケースもみられた。
実施状況の適切性	社会的つながりが少ない若者や女性等や働きにくさを抱えている若者や女性等が、本事業の関わりをもてたか	本事業を通して関わりをもてた	・一時的な関わりになった人も数名いるが、現在、継続して仕事を担っている人が3名いる。その中で、2名は数年間自宅で過ごしていた経験がある。

	<p>社会的つながりが少ない若者や女性等や働きにくさを抱えている若者や女性等の中で、本事業の関わりによって変化が生まれたか</p>	<p>変化が見られた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者のペースを大事にしつつ、終了時間を明確にすることで集中できる状況をつくり、本人の達成感を味わう機会につながっている。 ・対象者を業務遂行に含めることで体制づくりを工夫するきっかけになったり、様々な業務を体験しながら向き不向きを共有し組織全体の効率化につなげている。 ・本事業をきっかけに加わっているメンバーの2人は、これまで他の仕事や経験談から、過去に本人の状況（勤務頻度、仕事量等）に合った職場環境との接点が少なかったことが伺え、結果として自宅で過ごすことにつながっていたことが共通していた。そのため、本人の状況を本事業側も理解しながら、継続して働ける職場を整えるようところがけた。 ・職場環境に慣れる目的で、まずはごく一部のスタッフとのやりとりの中で仕事をするようにし、慣れてきた段階で少しずつ仕事内容を増やし、複数メンバーと一緒に仕事をする機会を設けることにした。その段階を経ることにより、緊張感や抵抗が少なく会話する相手や会話の内容も広がり、自分のことを話す機会も増えてきた。
<p>実施状況の適切性</p>	<p>（地域ネットワークの主軸になる）富士川町子育て支援課は、本事業に対する理解と連携を深めているか</p>	<p>富士川町子育て支援課は、本事業に対する理解と連携を深めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士川町子育て支援課とは意見交換等を適宜行い、お互い意見を出しやすい関係を少しずつ深め、取り組みの共有をすすめてきた。 ・町の助産師が産前産後訪問した際に、対象者に本事業を案内してもらうことで信頼度が高まり登録につながった。 ・2022年1月より本事業スタッフが富士川町主催の「すこやか教室（産後2～3ヶ月の産後ママ対象）」に参加できるよう段取りしてくれたおかげで、毎月そこで直接産後ママに案内する機会ができた。 ・子育て支援課の職員の皆さんにさらに活動の理解を深めてもらう目的で、産後ママ等にお届けするのと同じスタイルであずま袋に包んでお弁当をお渡しし、食べてもらった。これにより実感してもらうことができたため、今後産後ママ等へ

			<p>案内がしやすくなると考えられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、実施状況や課題、将来的な展望等を具体的に報告し、政策に盛り込める判断材料にしてもらうよう連携していく。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	産後ママの対象範囲は改善が必要か	改善は必要である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画当初、文献等から「産後0～4ヶ月」が最も手厚いサポートが必要（産後の体調の回復期、日夜関係なく赤ちゃんのお世話、外に連れ出すことが困難な時期等しんどさと孤立感が最も深刻な時期）であるため、その期間を対象に集中して支援することでスタートしたが、新型コロナウイルス感染拡大により町内の児童センターも短時間滞在・人数制限なため息抜きできる場所が限られていること、個人差もあるが生後6ヶ月頃まではその深刻な時期が続くことも多いため、今回の中間評価を経て、2022年10月より対象範囲を【産後0～6ヶ月頃を対象に】変更して対応することにした。また産後ママの状況に応じて6ヶ月以降の利用についても引き続き対応していく。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	産後ママの利用回数は最大10回で適切か	概ね適切である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画申請時は8回を想定していたが、事前評価を行った際、打ち解けて話ができるようになるには、より回数を増やして関係を築くことが重要であると判断したため、10回にして実施開始した。利用の回数を重ねる度お互いの緊張感も解け、日常の話が広がってきた利用者が多いことから概ね適切であると判断した。 ・ 職場復帰の兼ね合いもあり、10回利用せず終了とする利用者もみられた。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	富士川町内の産後ママで、利用しない人たちの要因について把握し、改善しているか	把握しており、2022年10月より改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年秋より富士川町内にお住まいの産後ママへお届けスタートしてから、利用者や周辺協力者とのやりとりを通して明らかになってきたことは、これまで事業開始当初に設定していた利用対象者層の1つである、【産後0～4ヶ月のお母さん】はかなり限定的であることが事業を進めていく中で見えてきた。産後4ヶ月を過ぎても利用可であることを口頭で伝えていたものの必要な人まで届かず、配布ちらしの改訂にまで手が回らなかったため、利用対象者層が利用を遠慮しやすい状況を生んでしまったと思われる。2022年10月よりちらしの案内を改訂し配布する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・公式ラインアカウントへの登録の運用について慣れない対象者が登録を躊躇してしまうことが見えてきたため、ラインに対する不安を取り除くよう夏より案内を増やした。 ・すでに登録して利用している産後ママ等にはコロナに対する感染対策を伝えていたものの、登録を控えていたママには伝わっていないことが見えてきたため、今後は一般情報にどのように届けているかどのようにお弁当をつくっているか等わかりやすく公表していく。 ・対象者にとって信頼度の高い子育て支援課や助産師（産前産後訪問時等）、児童センターからの案内アプローチは効果があるため、継続して案内してもらえよう働きかける。 ・SNS等で、お弁当や運営メンバー（特にお届けメンバー）の様子についてわかりやすく、軽い感覚で知ってもらえるよう定期配信を継続する。動画配信も試みる予定。
実施をと おした活動の 改善、知見の 共有	個別対応が必要な 子育て家庭につい て、利用しない要 因について把握 し、改善している か	改善できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・富士川町を中心とする周辺地域を対象に、個別対応が必要な子育て家庭については、横のつながりを通してリーチしている状態であり、利用案内が確立していないため広く公表できてない。 ・時間をかけて事情を理解し関係を続けていく必要性の高いご家庭もあるため、対象子育て家庭の理解者や支援者等と共有しながら慎重に利用家庭とつながるようこころがけている状態である。 ・産後ママの利用運営にマンパワーが注がれていたこと、個別対応が必要な子育て家庭との接点が非常にデリケートでつながりにくいこと等から、利用件数は少ないため、今後は協力者との連携を深め利用家庭を増やしていく。
実施をと おした活動の 改善、知見の	本事業が社会的つ ながりの少ない若 者や女性等や働き	関わりやすい要素 や働きやすい環境 を整えている段階	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も関わる個人の背景やペースを保ちながら、業務の幅や時間を増やしていくよう職場環境を整えていく。 ・すでに関わっているメンバーの存在によって得られた組織側の経験を、次の新

共有	にくさを抱えている若者や女性等にとって関わりやすい要素や働きやすい環境を整えているか	である	<p>たにつながる対象者に活かしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営メンバーが1人から複数体制になったことで、事務処理等の役割も安定し、共有する中で課題等が可視化され、見直しの機会がしやすくなってきている。 ・事業開始時はどこまで何を報告し、共有するかがメンバー間の共通認識になっていなかった。現在は複数体制で運営しながら情報共有の方法を構築し、お互いの不安要素を軽減している段階である。 ・家庭の事情等急に休まざるを得ない状況は生じやすいので、休んでもメンバー間で補いあえるよう、今後も声かけを日常的にこころがけ体制を築いていく。 ・これまで自宅で長年過ごしていた対象者については、本人の背景や経験を少しずつ開示してもらい、それらを共通認識にして勤務スタイルをつくってきた。今後も職場環境に無理のないペースで関わることができ業務内容や頻度に配慮して継続できるようこころがけていく。 ・また、同じ関わり方で新しい対象者を迎えることができるようにしていく。
実施をととした活動の改善、知見の共有	短期アウトカムの指標・目標値を改善する必要性はあるか	必要性がある	<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始前はイメージでしかなかった指標や目標値が具体的に見えてきたことにより、共通認識ができ、内部で議論しやすくなった。 ・3つのアウトカムのうち、2番目の「社会的つながりが少ない若者や女性等が、地域の様々な人たちのネットワークによって、社会とのつながりを実感し、暮らしやすい地域になる（つながりの連鎖）」に、「働きにくさを抱えている若者や女性等が」を追加した。これは、事業を実施していく中で、それぞれ個人が抱える「働きにくさ」が結果として仕事の関わりに影響し、さらに「社会的つながり」に影響している場合があることが見えてきたため、追加することとした。 ・指標については、事業実施したことにより、より具体的に適した指標に変更した。 ・目標値が事業開始時には設定できていなかったため、事業を実施していく中で設定した。

<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>活動の持続可能性を高めるために人材確保・人材育成の上で重要な点は何か</p>	<p>・メンバーの事情を理解し、活動との相互理解を深めながら事業遂行していく。</p>	<p>・現段階で関わっている対象者については、本人が継続したくなるためにも時間をかけて関係を構築し、人材育成は焦らないことが大事である。</p> <p>・これから関わるであろう対象者についても、事業遂行の両面と相手の状況を考慮しマッチングさせながら確保していくことが重要であることが改めて認識された。</p> <p>・各メンバーの抱える背景や事情を組織側が理解し、相互理解を深めながら取り組めるよう環境を整えていく。</p> <p>・まずは、本事業に①関わる、②役割を担う（仕事をする）、③役割を増やす・深めるために学ぶ、④学んで役割に活かす、といった4段階のサイクルを重ねていく必要があるが、現段階では②段階であると関係者間の意見交換で認識された。もう少し具体的に入れる。振り返りの機会を定期的に設け、認識していくように取り組む。</p>
<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>新たに関係構築が必要になるのはどのような団体、個人か</p>	<p>本事業が継続できるために必要な企業・行政・個人</p>	<p>・現段階での団体・個人についてはリスト化し組織内部で共通認識すること、新たな関係構築が必要な団体個人については、事業継続するにあたり、どのような連携が必要なのか議論をしながら進めていく必要がある。</p> <p>・ステークホルダーマップをつくった結果、事業スタート時はつながりが浅かった団体・行政等が、中間報告時では関係構築が進んでいることが明らかになった。</p> <p>・本事業が継続できるよう、関係を深めていく必要がある。</p>
<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>助成事業終了後も対象グループへの支援を継続するために、必要な活動は何か</p>	<p>富士川町子育て支援課への政策提言の足がかりをつくる</p>	<p>・助成終了後も事業継続にあたり、子育て支援政策、企業協賛型、あるいは第三の選択肢のいずれかが実現するために何が必要か事業を広げながら、関係者との意見をすりあわせをして出口戦略を練る。</p> <p>・これまでの活動の結果、富士川町内の産後ママの宅配弁当支援事業の予算規模や運営方法、運営体制についても具体的になってきたため、この具体的情報を富士川町子育て支援課とも共有しながら、政策に盛りこむ足がかりとして議論を進めていく。</p>

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

・産後ママの対面コミュニケーションやラインでのやりとりの蓄積をもとに、利用の傾向や利用対象の見直しを実施した。当初、【産後ママと未就学児の子ども（赤ちゃんの兄姉、ママと一緒に食べる想定）】を補助対象に利用スタートしたが、同居家族も利用したいというニーズがあることがわかったため（夫がテレワーク、高齢家族の同居、実家の親が赤ちゃんのお世話支援で一時滞在等）、2022年5月より補助対象とはせず一般利用価格で利用できるよう対象範囲を拡大した。さらに、赤ちゃんのお兄ちゃんお姉ちゃんが小学生以上もいることから、未就学児だけでなく産後ママの子どもはすべてママ同様100円で利用できるように見直し（2022年7月）、夏休み期間中産後ママと一緒に小学生の子どもの利用も見られたことにより、産後ママの負担が軽減される事例もあった。

・お弁当を利用したママから、「メニューを知りたい、自分でも気持ちに余裕がある時はつくってみたい」という意見もいくつか寄せられたことから、2022年6月よりメニュー表をSNSで公開している。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

●本音から見えてきたこと：産後ママとの対面コミュニケーションでは、「利用できて嬉しい」だけでなく、利用回数の終了が近づいてくると、「もう会えなくなるのかと思うと寂しくなる」と寂しさを伝えてくれた産後ママが数名いた。また、「(過度に)心配される、マークされるのがいやなので、(他で書かされる)アンケートとかでは悩みはないと書いてしまう」「しんどくても大丈夫と言って無理してしまう」など、頑張りすぎてしまう、正直な気持ちを伝えてくれる産後ママもあり、何気ない会話で築く関係が本音を引き出す上で重要であると思われた。

●活動メンバーの自己開示が産後ママ等の自己開示につながる：活動メンバーが自分の日常や子育ての経験を開示することで、利用者との共通点があったり励まし合ったりと、話しやすくなるきっかけにもなっている。

●「働きにくさ」を活かすきっかけに：スペースふうではもともとフルタイムで働くことが難しいメンバーが多く、子育てや介護、持病・特性、高齢等それぞれ「働きにくさ」を抱える理由は多様である。今回アウトカム2番目の「②社会的つながりが少ない若者や女性等が、地域の様々な人たちのネットワークによって、社会とのつながりを実感し、暮らしやすい地域になっている（つながりの連鎖）」の主語に「働きにくさを抱えている若者や女性等」が加わり明文化されたことで、「働きにくい」理由を抱えていても、働きがいを感じられる、業務が滞らず遂行される方法や体制は何か、組織全体で意識する機運が高まった。また、休まないといけない状況が突然発生しても待機メンバーの確保や事前確認等お互いカバーしあうよう理解が深まり安心して従事できるようになりつつある。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価において、POとともに、アウトカム達成に向けて、今までの事業のふりかえり、進捗の確認、これからの事業遂行の再検討を実施し、事業設計、事業計画の見直し、改善を行い、事業計画は適切に改善されたと判断した。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

地域支援者、ステークホルダーとの関係性を深めていくと同時に、継続した活動への支援・協力体制のために周囲、地域、行政への働きかけ、認知度を高めていく。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



1:00



hottos2525
NPO法人スペースふう



.....7人が「いいね！」しました

hottos2525 毎週、木曜日、金曜日は
ホットスデー(祝祭日はお休みになります)

当日、利用する方の表を再確認し、
利用者ごとのバッグに保冷剤とあずま袋をスタンバイ。

こまめにアルコール消毒します。

これから、お弁当づくりを担当している